

子供に聞かす話について

伊豫 清家 みすそ

子供じやとて馬鹿にはなりません、子供には子供相應の智慧があります、殊に其時ばかりの面白半分につまりもせぬ話をして嬉ばしむるは、誠に子供にいつはりを教へるやうに思はれて、氣に濟まぬことが度々あります、それゆへ子供に聞かす話しには親たる人はよほど氣をつけませんと、とんだことになるかもしれせん。

そこで私しと思ひまするに、何んでも子供に聞かす話には男の子なれば、補正成公とか山地將軍殿とか、中江藤樹先生とか二宮尊徳先生とか、また女の子なれば神功皇后様とか紫式部さんとか、其他いろ／＼右今にありふれた、人達の幼時を詮索して、此の人は何歳の時にかうゆう様なことを

なされた、此の人はかうゆう場合にかうなされた、と、あとから反問されても、慥かなる答辨が出来ぬ話をしては、どふだと思ひます。

此の頃専ら童話と言ふものが大流行で、小波さんの昔噺や研堂さんの理科童話などは、よつぽど面白うあります、ドーモ假りに拵へた話では假令昔話にせよ挑の中からやゝが生れたと言つて、ドーシテ桃からやゝが出来たと質問したらそれは大きくなつたら分るといふか、またお話しやものと言ひまざらかさば兎も角、そんならお話には無いことをつくつて詐を言ふてもよいかと、思はずやうになりはすまいか。

こんな類のお話しは澤山あります、例へば雀が人の衣服を纏ふて人言を吐き、狸がおいこを背負ふて薪木をこり、赤顔の金時や浦島太郎が龜に乗

つて龍宮へ往いたなど、一々擧ぐることはできません、斯ういふ話をして、なせこんなになつたであらふ、なせかうゆふ様にするであらふと、根問せられたら何んと平たく話しませう、私しは慥な答は六つか敷と思ひます、

此の様な話しは、今は小學校でも教へることゝなつて、立派に修身書とか國語讀本とかいふ、教科書ともなつてれる都合なれば、種々御研究の結果最も適當のものには相違ありませんが、家庭で話とするにはどれが一番よきか疑ひのまゝ伺ひ申します。

御説に付きては、外國でも多少議論がある様です何れ近刊の分に於て、此問題につきて記すことに致しませうか、夫よりも愛讀諸姉のこの説に付きて賛否の御意見が伺ひたひものです。

○上總のハ子つき歌

東京 じ、はやし生

●正月二月、三月四月、五月六月、七月八月、九月十月、霜月師走、正月の元日に、伯母御の所へ行つたれば、お芋と大根、煮てかせて、まつと喰ひたえと、いつたれば、箸で喉つゝいた。
●正月はいゝもんだ、木ツ端の様な、餅食つて、油の様な、酒呑んで、雪の様な、飯食つて、毎日々々遊んで、こないゝ事は、たんと無え。
●ビイヤ、チャツビヤ。小松の山の、小枝の葉。といろが下つて、一俵よ。

つごめよき親もあたらぬ巨燧かな 嵐 雪